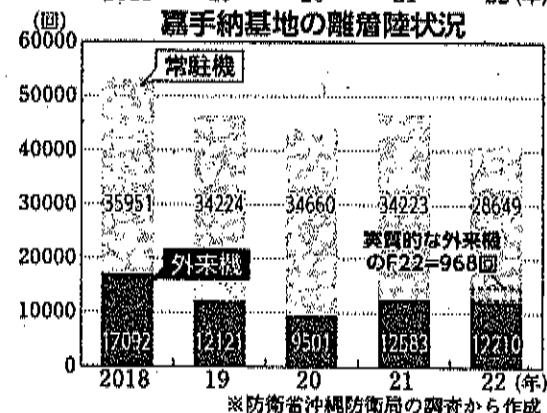
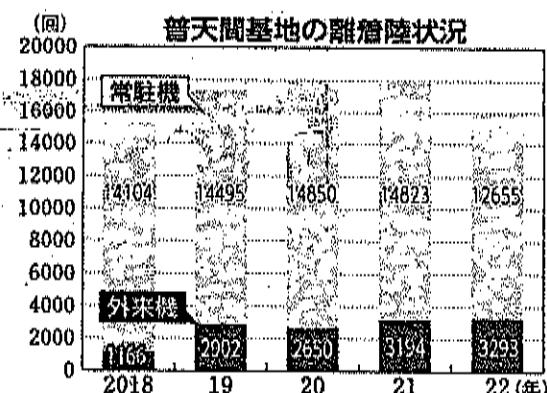


2/12 木曜

普天間の離着陸最多に「外来機」



*防衛省沖縄防衛局の調査から作成

米軍普天間基地（沖縄県宜野湾市）で、2022年2年の外来機（他の基地に所属する米軍機）の離着陸回数が3293回（前年比99回増）に上り、調査開始以来最多となつたことが、防衛省沖縄防衛局の調査で分かりまし

た。日本政府は「沖縄の負担軽減」を図り、米軍機の訓練を米領グアムや日本各地に「移転」して、訓練経費を負担してきました。しかし、外来機の増加によって負担軽減は進んでいない実態が浮き彫りになりました。

22年米オスプレイ急増

外飛機の飛来は年々増加しており、最も少なかつた18年と比べると2・8倍に増加しています。常駐機を含めた離着陸回数の合計は1万59948回で、前年より約1千回減少。夜間・早朝（午後10時～翌朝6時）の離着陸回数は3277回に上りました。

目立つてるのは、過去1回しか確認されていなかった米海軍のCMV22オスプレイの飛来が388回と急増していることです。CMV22は米原子力空母の艦載機で、地上と空母の連絡機として使用。中国をはじめ、沖縄近海で米空母の活動が活発化していることを示しています。米本土からとみられるMV22オスプレイの離着陸も527回と高止まりしています。

「沖縄の負担軽減」と称して普天間基地から山口

外飛機の飛来は年々増加しており、最も少なかつた18年と比べると2・8倍に増加しています。常駐機を含めた離着陸回数の合計は1万59948回で、前年より約1千回減少。夜間・早朝（午後10時～翌朝6時）の離着陸回数は3277回に上りました。

目立つてるのは、過去1回しか確認されていなかった米海軍のCMV22オスプレイの飛来が388回と急増していることです。CMV22は米原子力空母の艦載機で、地上と空母の連絡機として使用。中国をはじめ、沖縄近海で米空母の活動が活発化していることを示しています。米本土からとみられるMV22オスプレイの離着陸も527回と高止まりしています。

防衛局の調査は17年4月開始。離着陸回数は、タッチアンドゴー、通過、旋回を含みます。

外飛機の飛来は年々増加しており、最も少なかつた18年と比べると2・8倍に増加しています。常駐機を含めた離着陸回数の合計は1万59948回で、前年より約1千回減少。夜間・早朝（午後10時～翌朝6時）の離着陸回数は3277回に上りました。

目立つてるのは、過去1回しか確認されていなかった米海軍のCMV22オスプレイの飛来が388回と急増していることです。CMV22は米原子力空母の艦載機で、地上と空母の連絡機として使用。中国をはじめ、沖縄近海で米空母の活動が活発化していることを示しています。米本土からとみられるMV22オスプレイの離着陸も527回と高止まりしています。

防衛局の調査は17年4月開始。離着陸回数は、タッチアンドゴー、通過、旋回を含みます。

県の那国基地に移駐したKC-130空中給油機の飛来は129回でした。

米軍嘉手納基地（沖縄県嘉手納町など）では、常駐機の離着陸回数が2万8649回と前年より約17%減少。米空軍は嘉手納の主力機F-15戦闘機を退役させるため、昨年末から米本土への移動を開始。同時に米本土からF-22ステルス戦闘機のローテーション配備を開始しています。

外飛機の飛来は、米本土から配備されたF-22を加えると1万3178回で前年より1595回増加。特に6月に集中して、飛来機能に異常をきたすとされる100回を超える飛行が各地で計測されました。

外飛機の飛来は年々増加しており、最も少なかつた18年と比べると2・8倍に増加しています。常駐機を含めた離着陸回数の合計は1万59948回で、前年より約1千回減少。夜間・早朝（午後10時～翌朝6時）の離着陸回数は3277回に上りました。

目立つてるのは、過去1回しか確認されていなかった米海軍のCMV22オスプレイの飛来が388回と急増していることです。CMV22は米原子力空母の艦載機で、地上と空母の連絡機として使用。中国をはじめ、沖縄近海で米空母の活動が活発化していることを示しています。米本土からとみられるMV22オスプレイの離着陸も527回と高止まりしています。

防衛局の調査は17年4月開始。離着陸回数は、タッチアンドゴー、通過、旋回を含みます。